平　成　29　年　度

兵庫県公立高等学校学力検査問題

国　　語

注　　意

1　「開始」の合図があるまで開いてはいけません。

2　「開始」の合図で、1ページから8ページまで問題が印刷されていることを確かめなさい。

3　**解答用紙の右上の欄に受検番号**を書きなさい。

4　解答用紙の□の得点欄には、何も書いてはいけません。

5　答えは、全て**解答用紙の指定された解答欄**に書きなさい。

6　問題は五題で、8ページまであります。

7　「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。

8　解答用紙は、机の上に置いて、退室しなさい。

一　次の問いに答えなさい。

問一　次の傍線部の表現のうち、適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　石にしがみついてでも、県大会での初優勝を成し遂げてみせる。

イ　自分に都合よく事を運ぼうとしても、そうは問屋が許さない。

ウ　門限に間に合わなかった理由を問われると、弟は言葉を濁した。

エ　新聞報道により、長年隠されてきた事実が明るみになった。

問二　会社での外部からの電話の応対について、次の傍線部ア～エの表現のうち、適切でないものを一つ選んで、その符号を書きなさい。

「申し訳ございません。ア課長の山田は、イあいにく外出しております。ウ折り返しお電話を差し上げるよう伝えますので、恐れ入りますが、エお電話番号をちょうだいできますか。」

問三　次の短歌について説明したあとの文の空欄a・bに入る適切なことばを、aは片仮名一字で書き、bはあとのア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

さんがつのさんさんさびしき陽をあつめ卒業してゆく生徒の背中
（俵万智）

［a］行の音を重ねることでリズム感を生み出しており、晴れやかな卒業式で感じた一抹のさびしさを、［b］の視点から詠んでいる。

ア　教師　イ　保護者　ウ　卒業生　エ　在校生

二　次の書き下し文と漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔書き下し文〕

貪心の勝る者は、獣を逐ひて泰山の前に在るを見ず。雀を弾ちて深井の後に在るを知らず。疑心の勝る者は、弓影（市街）を見て杯中の蛇に驚き、人の言を聴きて市上の虎を信ず。

〔漢文〕

貪心勝者、逐獣而不見泰山在前。①

弾雀而不知深井在後。疑心勝者、見②

弓影而驚杯中之蛇、聴人言而信市③

上之虎。

（洪自誠『菜根譚』）

（注）泰山――虎などの獣が多くいた山。

問一　傍線部①の意味として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　勝つことにこだわる者　イ　欲張る気持ちが強い者

ウ　心がひどく貧しい者　エ　思いつきで行動しがちな者

問二　書き下し文の読み方になるように、傍線部②に返り点をつけなさい。

問三　傍線部③の本文中の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　虚言　イ　甘言　ウ　雑言　エ　格言

問四　本文の内容を説明した次の文の空欄a・bに入る適切なことばを、aは漢文から漢字二字で抜き出して書き、bはあとのア～エから最も適切なものを一つ選んで、その符号を書きなさい。

前半は「鹿を追う者は山を見ず」、後半は「［a］暗鬼を生ず」という故事成語と関連した内容となっており、全体を通して、［b］ということを表している。

ア　人を落とし入れようとすれば、必ず自分にも悪いことが起こる

イ　豊かさに満足しないでいると、身を滅ぼす原因を作ってしまう

ウ　一つのことにとらわれると、物事を正しく把握できなくなる

エ　他人はもともと信用できないものだから、用心した方がよい

三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（源八は）市店に至り盃を買ひて、①その大小心にかなふを択みて、「瑕なきや」と問ふ。市人「なし」とこたへたれば、やがて（そのまま）値を出だし盃を懐にして②帰りしを、妻熟視て、盃の裏の糸底に瑕あるを見出だし、「かく（このように）」といへば、源八また懐にしてかの所に往き、盃を返して、「何故に（どうして）我を欺くぞ」といふ。市人、③過ちを謝し、「値を返さん」といふ時、源八、「我は欺きを受くることを欲せず、故に盃を返すなり。値ををしむにはあらず。汝（あなた）は値を欲する故に我を欺くなり。今我 a を受けざれば望み足る。汝もまた b を得れば望み足れり。是れ両つながら望み足れば、何ぞ値を（どうして）返すを受けんや（受け取れようか）」といひ捨て帰る。④

（三熊花顛『続近世畸人伝』）

（注）糸底――陶磁器の底部。

問一　二重傍線部を現代仮名遣いに改めて、全て平仮名で書きなさい。

問二　傍線部①の本文中の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　以前から欲しかった大きい盃を選んで
イ　身分にふさわしい値段の盃を選んで
ウ　すすめられるままに高価な盃を選んで
エ　大きさがちょうど良いと思う盃を選んで

問三　傍線部②・④の主語の組み合わせとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　②　源八　④　源八　　イ　②　源八　④　市人
ウ　②　市人　④　市人　　エ　②　市人　④　源八

問四　傍線部③の内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　瑕が無いと言って客に盃を売ったこと。
イ　安い盃を店に並べていなかったこと。
ウ　瑕が目立たないように細工したこと。
エ　高い値段で客に盃を売ったこと。

問五　本文中の空欄a・bに入る語の組み合わせとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　a　盃　b　過ち　　イ　a　値　b　盃
ウ　a　欺き　b　値　　エ　a　過ち　b　欺き

問六　本文から読み取れる源八の人物像の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　自らの発言に責任を持つことを大切にし、他人のささいな失言も聞き逃さないで追及する人物。
イ　体面を保つことにこだわり、だまされたと感じたときには、怒りを表情に出して抗議する人物。
ウ　他人をいたわる心を持ち、貧しさからやむを得ず罪を犯した者に対して、施しを与える人物。
エ　だまされることを嫌い、世間一般の考えから外れた行動をとってでも、自らの考えを押し通す人物。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

高校に入学したばかりの相野美由は、久樹友里香、菰池咲哉と吹奏楽部を見学に行った。相野と久樹がどの楽器を選ぶか迷っていたところ、部長の藤原が、ドラマーとして知られていた久樹に打楽器を勧めた。久樹は、即座に断った。

久樹さんは深々と頭を下げると、大股で教室から出て行った。

「なに、あれ。生意気」

栗色の髪の美女が顔を歪めた。それほど大きな声じゃなかったけれど、教室内が静まっていたので、わりに①響いた。

菰池くんが身体を縮める。一年生たちが顔を見合わせる。

変わってるよね。

一人の唇がそう動く。隣にいた子が頷く。

あたしはカバンを手にして、藤原さんにお辞儀をした。

「すみません。あたしも帰ります」

「ええっ、ちょっ、ちょっと待てよ」

藤原さんではなく菰池くんがあたしの腕を引っ張った。

「何で相野さんまで帰っちゃうんだよ」

「久樹さんに確かめたいこと、あるの。すみません、失礼します」

もう一度、一礼すると久樹さんの後を追う。

廊下に出て、一瞬、振り向く。

藤原さんがため息を吐いていた。その横で、菰池くんも息を吐き出していた。

久樹さんに追い付いたのは、昇降口の手前だった。なかなかに足が速い。追い付いて、あたしは数秒息を整えなければならなかった。

「なに？」

久樹さんが首を傾ける。

「久樹さん……あの、吹奏楽部……」

「うん？」

「入らないつもり？」

「なんで？」

久樹さんの②肩がひょいと上がった。

「なんで、そんなこと言うの。一度入ると決めたら、入るよ」

「そう」

あたしは胸に手を置いて、深呼吸を二度くり返す。安堵したのだ。

「でも、今日は嫌。あたしが何を選ぶかあたしにしか決められないんだから。あんな風に……」

「押し付けて欲しくなかった」

久樹さんが一瞬、③視線をうろつかせた。

「……みんな、あたしにドラムやパー(注)カッションを押しつけようとするの。中学のときもそうだった。あたしは当然、打楽器だよねって、周りが勝手に決めつけちゃって……」

「久樹さん、ドラムやティンパニ、嫌いなの」

「好きだよ。トレモロ(注)で曲を盛り上げるときなんか最高だと思う。何かすかっとするんだよね。リズムを支えているっていうか、うん……すかっとする」

「だったら……」

「わかってる」

久樹さんが④唇を噛んだ。

「あんな態度すべきじゃないって、わかってる。あの部長さんに悪気がなかったのもわかってる」

「でも、［　　］」

同じ言葉を繰り返す。

久樹さんは首を折るように深く首肯(注)した。⑤小さな子どものような仕草だった。

「悪い癖……なんだ。誰かに押し付けられてるって感じちゃうと、我慢できなくて……。あたしのことなんか何にも知らない人が、勝手にあたしのこと決めちゃうの……我慢できなくて」

久樹さんが長い長い吐息を漏らした。⑥さっきの藤原さんや菰池くんのため息より、ずっと長くて重い。

「でも、久樹さん、迷ってたじゃん」

あたしは半歩、久樹さんに近づいた。

「すごい迷ってたでしょう」

「……うん。もちろん、ティンパニ、やりたいけど……でも、他の楽器もやれるんじゃないかって……、打楽器じゃないものをやってみてもいいんじゃないかって……考えてた」

「だよね。だったら、もうちょっと待ってもらいたかったの、わかるよ。迷っているときに答えを突きつけられたら、安心するときもあるけど、余計に迷っちゃうときもある。混乱しちゃってどうしていいかわかんなくなるときもあるし……、あたし、久樹さんのことあんまり知らないけど、久樹さんのドラムがものすごくかっこよかったぐらいは、わかる。ドラムが好きじゃなくちゃ、あんな演奏、できないよね。でも、それはずっと昔の久樹さんで、今の久樹さんは、いろんなこと考えてるんでしょ」

あたしたちは高校生で、まだ大人じゃないけれど、もう子どもでもいられない。そんな年齢だ。だから、⑦いろんなことを考える。

現実一辺倒でない、百パーセント夢物語じゃない、あたしたちの物語を創り出そうと足掻いている。

ちびっ子のとき天才ドラマーだったとしても、十六の今、何に惹かれているかなんて、本人以外にはわからない。ううん、本人だってわからない。

久樹さんはわからない自分に、真っ直ぐに向かい合おうとしているのだ。とても不器用に、愚直に、潔く。

「久樹さん」

久樹さんが顎を上げる。

「一緒に、吹奏楽、やろうね」

暫くの間があって、久樹さんは「もちろん」と答えてくれた。

（あさのあつこ『アレグロ・ラガッツァ』）

（注）パーカッション――打楽器の総称。
トレモロ――同一の音を連続して小刻みに演奏する技法。
首肯――うなずくこと。

問一　傍線部①・⑥の漢字の読み方を平仮名で書きなさい。

問二　二重傍線部A・Bについて、Aは同じはたらきのもの、Bは同じ品詞のものを、次の各群のア～エからそれぞれ一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

A　ア　鳥の鳴く声が聞こえる。　イ　桜のつぼみがほころんだ。
　　ウ　彼は走るのが速い。　エ　どんな本が好きなの。

B　ア　駅までそれほど遠くない。　イ　今年は雨が少ない。
　　ウ　忙しくて遊ぶ時間がない。　エ　彼は掃除をしようとしない。

問三　波線部の表現の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　自分の意見を持たずに、周囲の発言に流されている生徒の様子を、上級生の視点から描いている。

イ　緊迫した雰囲気の中、久樹の態度に周囲の人がそれぞれに反応する様子を、相野の視点から描いている。

ウ　数名のささやき声が聞き取れるほど、教室内が静まりかえっている状況を、相野の視点から描いている。

エ　久樹に対する批判的な感情が教室内の生徒に広がっている状況を、上級生の視点から描いている。

問四　傍線部②～④の久樹の様子を説明した次の文の空欄a・bに入る最も適切なことばを、aは【A群】のア～エから、bは【B群】のオ～クから、それぞれ一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

②はさりげなく振る舞う様子、③は［a］様子、④は［b］様子を表している。

【A群】

ア　動揺する　イ　萎縮する　ウ　落胆する　エ　驚嘆する

【B群】

オ　悲しむ　　カ　あせる

キ　悔しがる　　ク　うんざりする

問五　本文中の空欄に入る最も適切なことばを、本文中から十五字以内で抜き出して書きなさい。ただし、句読点も一字に数える。

問六　傍線部⑤について、次の問いに答えなさい。

(1)　ここで使われている表現技法を、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　直喩（明喩）　イ　隠喩（暗喩）　ウ　擬人法　エ　対句

(2)　ここから読み取れることの説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　久樹が、相野から反省を促されたことで、相野に嫌われたのではないかと心配しているということ。

イ　久樹が、自分の言動の矛盾を相野に鋭く指摘されたことで、気落ちしてしまっているということ。

ウ　久樹が、相野の言うことを正しいと信じ、忠告や助言を全て受け入れようとしているということ。

エ　久樹が、自分の気持ちを相野に理解してもらえたと感じ、素直に感情を表しているということ。

問七　傍線部⑦はどういうことを表しているか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　自分に何ができるかよりも、今の自分が何をしたいかを大切にし、様々な困難にも負けずに目標を達成する自分の姿を心に思い描くこと。

イ　望ましい高校生活を送るために、反省すべき点は反省し、良い点はさらに伸ばすことができるよう、これまでの自分自身を振り返ること。

ウ　今の自分にできることを考えたり、本当にやりたいことを自分自身に問いかけたりしながら、自分らしい生き方を探して思い悩むこと。

エ　自分が何に向いているのかということについて、周囲の人の様々な意見をできるだけ取り入れて、自分が納得する答えを出そうとすること。

問八　本文における相野の心情の変化の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　久樹の態度に戸惑っていたが、久樹が次第に心を開いてきたことで親しみを感じ、このまま二人で吹奏楽部に入り、同じ夢を追いかけたいと思うようになった。

イ　久樹の行動を心配していたが、久樹の気持ちを確かめていくうちに、迷いと向き合っている久樹に共感を覚え、心から一緒に吹奏楽をしたいと思うようになった。

ウ　考えを曲げない久樹を持て余していたが、久樹に思いを真っ直ぐに伝えたことでわだかまりが消え、吹奏楽を通して友情を育てていきたいと思うようになった。

エ　孤立を恐れない久樹を不審に思っていたが、本心を聞く中で、久樹が一人で苦しんでいたことに気づき、吹奏楽部に入って手助けをしたいと思うようになった。

五　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは、国や自治体の政治については、相変わらず民主政治でやっています。私たちが政治家を選挙で選び、その政治家がさまざまな意見をぶつけ合い、その間で調整をした上で決定を下す。そのような非コウ率で手間のかかる面倒なしくみを手放さないのはなぜなのか。

外国もみんなそうしているから、という答え方もあります。これはこれで一つの知恵ですし、世界標準というものをケイ視すべきではありません。しかし、企業法人的な決め方が浸透しつつある中では、それだけでは十分な答えではないでしょう。私は、民主政治が必要な理由には大きく二つあると考えています。

一つには、自分にかかわることを、自分の知らないところで他人に勝手に決められたくないし、そうされては困るという意識が人びとの間に強いことです。これが民主政治を根本のところで支えている。民主政治の理由を突き詰めていくと、こうした自己トウ治や自己支配への欲求にぶつかる。集合的な決定ではあっても、自らの運命を左右しかねないことについては、決定に自分自身が［①］ということです。

それと表裏の関係ですが、二つめは、民主的な決定については、関係者が納得しやすいということです。民主政治で決められたことについては、たとえ自分の意思とは違う結果だとしても、他の決め方に比べれば、それが自分たちの決定だという意識をもちやすく、決定の後において、抵抗や反発が出てくることが少ない。つまり、決定「後」の円滑さという点では、民主政治に優るものはないといえるのです。

しかし、決定「前」に関しては、民主政治はたしかに時間がかかる。多くの人びとが話し合って決めるのですから当然のことです。時間がかかる民主政治にいらだち、「決められない政治」を非難し、素早い決断を求める傾向が出てくるのはこのためです。権力の集中への欲求です。

民主政治である以上、政治がうまくいかなかった際の責任は、最終的には私たち有権者にあるはずです。［②］、どんな政治も完全な形の民主政治とはいえないでしょう。私たち一人一人は、一〇〇万分の一、あるいは一億分の一の声でしかないという感覚をもち、無力感を感じています。［③］、それでもなお、自分たちが政治の当事者であるということを放棄してしまえば、私たちはそのときこそ本当に無力となってしまいます。責任を認めることは、当事者性を主張する前提のはずです。

ただ人間というのは勝手なもので、うまくいったときには自分の手柄にしたいけれども、うまくいかなかったときには、誰かのせいにしたいものです。すべてを決めてくれる政治家を求める声はこのあたりから出てくる。④「強いリーダーシップ」の要求とは、失われた「王様」を改めて待望する声です。

しかし、それなら民主政治を本当にやめてしまってもいいのかといえば、それはそれで、広くサン同を得られそうにはありません。自分たちが当事者でありたい、決定に参加したいという欲求も人びとは強くもっているからです。その証拠に、いまの政治で一般的なしくみである代表制では自分たちの思いが伝わらないから、より直接的に参加したいという声も強い。政治家たちは、自分たちを無視して勝手に行動しているのではないか、自分たちをないがしろにしているのではないか、というわけです。

現在、民主政治へのいらだちは、政治家や政党に対する拒否権の行使という形で表れがちです。つまり、「強いリーダーシップ」を求めて特定の政治家をまつり上げたり、新たに生まれた政党に大きな期待をもったりするものの、その限界を⑤見るやいなや引きずり下ろし、今度は別の政治家や政党に期待する。しかしそれもまた裏切られるということを繰り返し、次々にひんぱんに交代させる。もちろん、政権交代は民主政治の大切な部分ではありますが、同時に、政治家や政党を支えて権力を安定させることも必要であり、そのバランスが求められます。「強いリーダーシップ」への過大な期待は、幻滅の連鎖を通じて、政治そのものの否定につながりかねません。

先ほどから述べているように、最終的な決定主体としての主権が成り立

ちにくいような状況になっている中、政治に負荷をかけすぎることは、⑥政治を失わせることにつながるでしょう。

物事を決めることの意味について見てきましたが、その関係で、ここで一つ考えておきたいことがあります。政治には時間がかかる。このことをより積極的に評価することはできないでしょうか。

今の世の中の趨勢(注)は、物事を早く決めたいという決断主義です。何を決めるかよりも、決めること自体を自己目的化している面すらあるように思われます。そしてこの背景に、私たちの社会で経済が占めている部分の拡大があることは明らかです。経済活動や情報の流れなど、あらゆるものがスピードを増しています。政治も、経済の⑦足手まといにならないように、これに合わせるべきだ、という声が高まっている。高速の時代において、民主政治は何という遅延行為なのか、というわけです。

しかし、権限をもつ誰かがさっさと決めるのではなく、みなで議論して決めるようなやり方に、意味はないでしょうか。実は、早い流れに抗することそのものに意義があるのではないか。経済や情報の流れは、その場その場での即座の対応を迫ってきます。過去をふり返っている時間はそこにはありません。自分のやっていることが、未来に対してどんな影響を及ぼすのかを、立ち止まって考えている余裕もない。その結果として、経済合理性だけを追求し、目先の利益や便利さだけを求めていけば、私たちはとんでもない間違いをしてしまうかもしれません。

こうした趨勢そのものを変えることはできないとしても、その一方で、過去と未来の間としての現在にふみとどまって、自分たちの行動がもたらす影響について、考えをめぐらしてみることも必要なのではないでしょうか。

（杉田敦『政治的思考』）

（注）企業法人的な決め方――ここでは組織の上層部が意思決定をし、下部へ指示命令をする組織のあり方を指す。

趨勢――全体としての動き。

問一　二重傍線部A～Dの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のア～エからそれぞれ一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

A　ア　逆転勝利にコウ奮する。　イ　名所を観コウする。
　　ウ　建物のコウ造を調べる。　エ　余暇を有コウに使う。

B　ア　ケイ快な足取りで歩く。　イ　厳重にケイ戒する。
　　ウ　穴の直ケイを測る。　エ　電車の模ケイを作る。

C　ア　人材をトウ用する。　イ　同じ系トウの色を使う。
　　ウ　検トウを重ねて結論を出す。　エ　新聞に意見をトウ書する。

D　ア　サン味の強いりんご。　イ　現地で解サンする。
　　ウ　新聞社が協サンする展覧会。　エ　原油をサン出する。

問二　傍線部⑤・⑦を言いかえた表現として適切なものを、次の各群のア～エからそれぞれ一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

⑤　ア　見るまでもなく　イ　見るとすぐに
　　ウ　見ていないのに　エ　見きわめてから

⑦　ア　負担　イ　後追い
　　ウ　付け足し　エ　妨げ

問三　空欄①に入ることばとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　かかわらないと納得できない
イ　かかわらなくても納得できる
ウ　かかわっていても納得できない
エ　かかわっているので納得できる

問四　空欄②・③に入ることばの組み合わせとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　②むしろ　③また　イ　②たしかに　③なぜなら
ウ　②もちろん　③しかし　エ　②まして　③やはり

問五　本文の論理の展開について説明したものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　異なる視点からの考察を積み重ねて結論を導き出している。

イ　最初に提示した結論を最後に繰り返してまとめとしている。

ウ　結論となる考えを述べた後に具体例を並べて論証している。

エ　複数の意見の共通項から推測される考えを結論としている。

問六　傍線部④の背景について説明した次の文の空欄a・bに入る最も適切なことばを、aは【A群】のア～エから、bは【B群】のオ～クからそれぞれ一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

人びとが、［a］民主政治に対して不満を抱いていることや、［b］こと。

【A群】

ア　知らないところで勝手に決められる

イ　自分の意思と違う結果になる

ウ　決めるまでに時間がかかる

エ　無力感を感じやすい

【B群】

オ　抵抗や反発が少ない決定が良いと考えている

カ　失敗の責任を負うことを避けようとしている

キ　完全な形の民主政治を実現しようとしている

ク　政治に参加しているという実感を求めている

問七　傍線部⑥とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　政治家や政党を支えることが、特定の政治家や政党に権力を必要以上に集中させることになり、その結果、政権交代の機会をなくしてしまうということ。

イ　政治家や政党を持ち上げては落とすことの繰り返しが、政治家から人びとのために働く意欲を奪い、その結果、誰も責任を取らなくなってしまうということ。

ウ　政治家や政党に対する失望が、政治に直接参加したいという欲求を強め、その結果、現在行われている代表制の政治を否定するようになるということ。

エ　政治家や政党に対して過大な期待をかけることが、幻滅の繰り返しを招き、その結果、人びとが政治は無力と考え、政治を放棄することになるということ。

問八　本文における筆者の主張として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　経済活動や情報の流れなど、あらゆるものに速さが求められる現代において、世界標準からとり残されないために、政治的な決断の速度を上げることが必要である。

イ　民主政治においては、過去の経緯をふまえ、自分たちの決定が将来に対して及ぼす影響を考えたうえで、当事者として時間をかけて議論を重ねることが重要である。

ウ　多くの人びとがかかわって意思決定をする民主政治は、政治に参加しているという実感を得ることが難しいため、同じ考えの人と協力して議論することが重要である。

エ　現代の社会では、物事を早く決めたいという風潮があり、決めることそのものが目的となっているため、すでに決定した内容について、改めて検証する必要がある。